

心臓血管病のある人が健康的な生活様式を取り入れている

割合は国の所得別に比較しても有意な差はない

虚血性心疾患（CHD）または脳卒中既往のある人が健康的な生活様式を取り入れている割合を世界的に検証した研究はほとんどない。

そこで、この研究では心臓血管病または脳卒中の既往のある患者について、禁煙、健全な食習慣、日常的な運動の普及率を調査した。3つの高所得国（HIC）、7つの上位中所得国（UMIC）、3つの下位中所得国（LMIC）および4つの低所得国（LIC）の628の都心部および地方において、2003年1月から2009年12月の間に登録された35歳から70歳の成人153996人を対象にした、前向きコホート研究の疫学的調査を使用した。

主要な結果の指標は、喫煙状況（喫煙、過去に喫煙、非喫煙）、運動レベル（低度、600代謝当量作業〔MET〕-分/週;中等度、600-3000MET-分/週;高度、3000のMET-分/週）、そして食生活（食事摂取頻度質問票によって分類）とした。

自己申告による心臓病患者または脳卒中患者7519人のうち喫煙し続けたのは18.5%、高い運動レベルを保持したのはわずか35.1%、健康的な食事を摂っていたのは39.0%、3つの生活習慣のいずれも行わなかったのは14.3%、3つの全てを行ったのは4.3%であった。

全体として、52.5%が喫煙した（収入別国分類では：高所得国で74.9%;上位中所得国で56.5%;下位中所得国で42.6%;低所得国で38.1%）。運動量は国の収入が高いほど多かったが、統計的に有意差はなかった。

健康的な食事を摂っている割合が最も低かったのは低所得国の25.8%で、下位中所得国は43.2%;上位中所得国は45.1%、高所得国は43.4%であった。

心臓病または脳卒中の患者では、低所得国から高所得国、いずれの国でも健康的な生活様式を取り入れている割合は低かった。

（出典: Journal of American Medical Association 2013; 309: 1613-1621）